

Ⅲ 令和7年度に向けた提言と令和7年度の学校の取り組み

◆1【人と人とのつながりについて】

提言	児童の「あいさつ」や「助け合い」、「相談できる」といった項目の肯定的評価が低下しており、人との関わりが希薄になっている可能性がある。ICTの普及によりコミュニケーションの在り方が変化していることも背景として考えられる。学校においては、対面で関わることの良さを実感できる取組を充実させるとともに、児童が主体的にルールづくりに関わることで自律心の育成を図ることが求められる。
取組	○学級活動や児童会活動において、あいさつ運動や異学年交流活動を計画的に実施し、児童同士の関わりを深める機会を設けた。日常的な声掛けや振り返り活動を通して、関わりの大切さを意識させる指導を行った。 ○生活指導においては、学級や学年ごとに児童とともにきまりを見直す機会を設定し、自分たちで考えたルールとして守ろうとする意識の向上を図った。 ○一方で、児童同士の関わりに消極的な様子や、相談行動に個人差が見られるなど、引き続き継続した働きかけが必要である。

◆2【ICT 機器の活用について】

提言	インターネットや SNS に関する家庭での話し合いについて、児童と保護者の意識に差が見られる。学校においては、セーフティ教室等を継続するとともに、ICTの利便性とリスクの両面について理解を深め、家庭で話題にできるような働きかけが必要である。
取組	○セーフティ教室やネットリテラシーに関する講座を実施し、保護者の参加を促すとともに、資料配布や動画配信等を通して家庭で話し合うきっかけづくりを行った。 ○授業においても ICT 機器を活用した学習活動を通して、新しい技術に触れる機会を設け、その活用方法について児童が考える場面を取り入れた。 ○しかし、家庭での継続的な話し合いにつながっていないケースも見られ、児童の実感として十分とは言えない状況もあるため、今後も家庭との連携強化が課題である。

◆3【学校からの情報提供について】

提言	学校からの情報提供そのものへの評価は高まっているが、学び舎の取組や学校の重点目標、災害時の対応など、内容に関する理解は十分とは言えない。より分かりやすく、関心を高める工夫が求められる。
取組	○学校だよりやホームページ、メール配信等を活用し、教育活動の様子や重点的な取組について継続的に発信した。特に、写真や具体的な活動内容を取り入れることで、保護者が理解しやすい工夫を行った。 ○一方で、情報の内容によっては十分に伝わっていない面もあり、受け手の関心や理解度に応じた発信方法の工夫が引き続き必要である。

全体として、各取組は一定の成果を上げているものの、児童の実感や行動の変容という点では引き続き課題も見られる。今後も、学校・保護者・地域が連携しながら、よりよい教育環境の充実に努めていくことが求められる。